

ふるさとを愛する人と心を育むまちづくり

小 学校については、教育課程に基づき鉄棒施設の増設を行い、子どもたちの学びの場である学校施設の整備、充実に努めてまいります。

中学校では、校舎及び体育館の耐震補強・大規模改修工事が2年目を迎えます。引き続き、生徒の学習環境に配慮しながら、学校施設の整備を進めてまいります。

置戸高等学校の支援については、給食センターで調理した栄養バランスの取れた学校給食の提供を開始いたします。また、福祉科準教科書、バス通学費、寮費への一部助成や、PR活動を継続いたします。

社会教育については、「まちづくりは人づくり」を基本に、第10次社会教育5ヶ年計画の策定作業を進めてまいります。

青年の研修事業として、「まちづくり青年国内研修」を再開し、次世代の人材育成を進めてまいります。

郷土資料、文化財の関係ですが、札幌学院大学との地域交流に関する協定をもとに、埋蔵文化財の発掘実習の継続と、郷土資料館の資料を活用しての新たな実習を進めてまいります。

公民館施設については、勝山公民館の外構工事と



札幌学院大生の考古学実習＝勝山神社遺跡にてして、複合遊具などを設置いたします。

社会体育ですが、子どもの運動不足、体力低下が課題となっていることから、おけとわんぱくクラブやスポーツ少年団活動の支援など、小学生の体力と運動機能の向上を図ります。

生涯学習情報センターでは、開町100周年に合わせ、「置戸町100年の歴史と証言（仮称）」の発行に向けた編集作業を進めてまいります。

森林工芸館では、オケクラフト誕生30周年記念事業実行委員会での議論を活かし、オケクラフトの一層の振興に向けた取り組みを進めてまいります。

どま工房については、秋岡陽氏を名誉館長に迎え、手仕事文化の情報発信に努めてまいります。

心ふれあう協働のまちづくり

大 正4年に野付牛村から分村した本町は、平成27年には開町100周年を迎えます。開拓に携わってきた多くの先人たちへの感謝と、これまでの歴史や文化を後世にしっかりと引き継いでいくため、本年度、実行委員会を立ち上げ、記念事業実施に向けた準備を進めてまいります。

広報おけとや町のホームページを活用して、積極的な町政情報の提供に努めます。また、「町長への手紙」事業、各地区、各種団体との懇談会の開催など、広報広聴の充実に努めてまいります。

平成26年4月から、消費税率が5%から8%に引き上げられるため、各種手数料及び使用料の見直し

を行い、受益者負担の適正化に努めてまいります。

一 般 会 計		38億9,700万円
特 別 会 計	国民健康保険	5億1,330万円
	後期高齢者医療	5,630万円
	介護保険事業	3億1,760万円
	介護サービス事業	1,370万円
	簡易水道	7億7,470万円
	下水道	2億4,900万円
合 計		58億2,160万円